らいふ通信
ぷちらいふ

lifsea
株式会社リフシア

HP／http://lifsea.co.jp
らいふ日記（スタッフブログ）
green.ap.teacup.com/lifekaigo
2015夏Vol.40

花だより 8 つつじ

つつじは春の季語ですが、初夏にかけて、身近に見られる花です。漢字では「躑躅」と書きます。バラ・「薔薇」と同じで、難しい字ですね。英名では「アゼリア」といいます。

花言葉は「燃える想い」、「恋の喜び」、「初恋」など、なかなか華やかです。

この花は茅ヶ崎市の花でもあります。中央公園や文化会館の周辺にはドウダンツツジやオオムラサキツツジが、あちこちに植えられています。小高い丘の上にある市役所の旧エントランスの脇にもひときわ大きなオオムラサキツツジがあります。

因みに、市の木はアカシア、鳥はシジュウカラです。どれも、平凡なものですが、いつでも、どこでも、見ることができます。市民広報誌の題字の下などに絵が載っております。

昭和47年、市制25周年を記念して、市民の投票によって選ばれたとのことです。

藤沢市の花はふじ。木は、くろまつ。鳥はカワセミだそうです。

つつじの名所といえば、東京の根津神社、箱根の芦ノ湖湖畔の山のホテル（元岩崎小弥太の別邸）などが有名で、小山のようなつつじの群れが庭いっぱいに広がっています。つつじは路地に良く見ますが、若い頃、ハイキングで行った、丹沢の山道に咲いていたゴヨウつつじ（五枚の花弁）、ミツバツツジ（下向きに咲く）のあざやかな姿は今も心に強く残っています。

皐月（さつき）は、つつじと同種ですが、その名のごとく五、六月ごろに紅紫色の花をつけます。花も葉も、つつじより小ぶりで、常緑樹です。これは夏の季語です。

シャクナゲの花（♪夏が来れば思い出す　はるかな尾瀬青い空・・・シャクナゲ色にたそがれる・・と歌われた）も、ツツジ科ツツジ属で、同族の花です。そのシャクナゲは中国式で「石楠花」と書きます。

若い時、旅行した女人高野（にょにんこうや）といわれる奈良の室生寺の五重塔に通じる道に、梅雨空に煙るように咲いていた光景は今でも、忘れられません。

庭芝に小みちまわりぬ花つつじ
龍之介

近道へ出てうれしの野のつつじかな
蕪村

（井）

リフシア鵠沼海岸オープン

9月1日藤沢市鵠沼海岸に、リハビリを重視したリフシアのショートステイとデイサービスがオープンします。今号では理学療法士でもあるリフシア鵠沼海岸の黒澤昌子所長にお話を伺いました。

リフシア鵠沼海岸
黒澤昌子所長

いよいよ、新しいコンセプトで在宅介護を支える「リフシア鵠沼海岸」がオープンの日を迎えます。

リフシア鵠沼海岸のショートステイはユニット型個室です。

ご自宅にいるような気兼ねない生活環境の個室と、ダイニングやキッチンなどの共有スペースがあり、1ユニット10室を担当する専任の介護職がしっかりサポートします。

在宅介護は24時間365日休む事ができません。より良いコンディションで介護を続けるためには介護者の方の休息も必要です。定期的にショートステイをご利用いただき、「介護する方」「される方」ともにリフレッシュしていただきたいと思います。

そして何よりも、預けられるショートステイから行きたくなるようなショートステイを目指して、宿泊中はリハビリ専門職が行う身体機能や日常生活能力の向上に向けた機能訓練プログラムに参加していただきます。退院（退所）直後、ご自宅にスムーズに戻れるようなお手伝いができるのも大きな特色の一つです。

自立支援をテーマに活発な意見交換をするスタッフ

デイサービスでは、起きる・座る・立つ・歩く・考える・話す・行動するといった人の生活行動全てをリハビリテーションの対象と捉えて、お客様の「目標」に合わせたリハビリテーションを提供します。

デイサービスでの予定をスタッフと共に決めていただき、体操や脳トレなど様々なプログラムにチャレンジできるシステムです。本格的なカラオケルームも完備しています。また、建物の外周にはリハビリサーキットと名付けた歩行練習用のコースも用意しました。

地域に根を張り、地域の大切な社会資源として皆さまのお役にたてるよう日々精進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

地域の皆様に愛される施設を目指して

内覧会のお知らせ
8月21日（金）22日（土）23日（日）
10：00～16：00

交通のご案内
藤沢駅北口ロータリー３番乗り場より、江ノ電バス「鵠沼車庫前」行き乗車「藤原」停留所下車徒歩３分。（太陽の家入り口交差点左折）

お気軽にお問合せください

リフシア鵠沼海岸
神奈川県藤沢市鵠沼海岸７丁目５番22号
☎0466-30-1414
土・日連絡先 070-2175-1318 担当 黒澤

編集後記

暑中お見舞い申し上げます

毎日30度を超える酷暑の中、リフシアの皆さんの活気ある写真が「らいふ日記（ブログ）」で紹介されています。リフシアHPからご覧にいただけます。また湘南・茅ケ崎でまちづくりの活動をされている市民グループ「まち景まち観フォーラム・茅ケ崎」のまち景活動日誌でもリフシア浜之郷が取り上げられています。興味ある方はPCで検索してみてください。

リフシア浜之郷（サービス付き高齢者向け住宅）の庭で植えたひまわりが満開

らいふ通信「ぷちらいふ」夏号 Vol.40
2015年8月15日（季刊発行）
編集／ぷちらいふ編集室
〒253-0071 神奈川県茅ヶ崎市萩園 2822-1
TEL0467-55-5102 FAX0467-55-5103
発行／株式会社リフシア

第7回リフシア公開セミナー
すべての人に「介護予防」を
～シルバーリハビリ体操～

茨城県立健康プラザ管理者　大田仁先生

2015年5月16日に第7回リフシア公開セミナーが行われました。当日は生憎の空模様でしたが茅ヶ崎商工会議所には約130名の方にお集まりいただき、太田先生にお話ししていただきました。日本は『はんぱでない超高齢社会』に突入しました。大田先生はこの問題に対し「宿命は変えられないが、運命は変えられる」と力強く仰っていました。キーワードは【世のため、人のため、自分のため】の３ため活動です。体操や日頃の運動を通じて自分で自分を守る【自助】、ボランティアや社会活動を通じて人のために活動をする【互助】、地域のつながりが社会状況を豊かにしていく【共助】。この３ため活動によって『はんぱでない超高齢社会』を乗り切ることができます。株式会社リフシアは今年度より『健康呼ぼう事業』を立ち上げました。介護予防を包括的に捉え、“呼ぼう”で人と人をつなぎ、最期まで人間らしくある【尊厳】を見つめながら、これからも心に寄り添って歩みを進めていきたいと思います。

健康呼ぼう事業担当　原田和巳

特集記事 地域包括ケアの一翼を担うリフシア鵠沼海岸の紹介

生活期リハビリテーションで要支援・要介護高齢者の生活を支える新しいコンセプトの在宅サービス

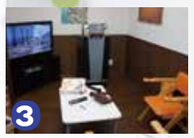
リフシア鵠沼海岸のショートステイとデイサービスは、介護者のレスパイトを目的とした従来のサービスから、利用する方を主体として在宅での生活機能が改善されるよう、リハビリ重視のサービスを提供する事業所としてオープンします。

ひとり一人のスタッフが「その人が人間らしく生きる権利の回復（全人的復権）」を目指すリハビリマインドで、利用する方の自己選択を尊重した案内役となり、専門的な立場で適切なアドバイスが行えるよう、開設準備の研修やミーティングを重ねてきました。

お風呂も自宅と同じ個浴なので、その方の状態に合わせた入浴方法のアドバイスを専門職から受けることができます。本格的なカラオケルームは、ストレス発散や趣味をとおした交流スペースとして活用できます。唄をうたうのも脳や肺など人間の様々な機能に働きかける有効なリハビリとして期待できるのです。

リフシア鵠沼海岸は、利用する方が生活する地域や、ご自宅にも伺います。利用する方の在宅生活に少しでもお役に立ちたいと考えています。

ご利用に関するご相談、介護のお困りごとなど、どのようなことでもご相談ください。



本格的なカラオケルーム

2階

ショートステイ

2階・3階にトレーニングマシーンや平行棒などがあるので、自分のペースで機能訓練ができます

3階

外周のリハビリサーキット

建物の外周のリハビリサーキットでは、坂道や段差、砂利道、横断歩道など、実際近隣に出かけるために必要なトレーニングの環境を整えました。

リフシア神明 東日本大震災復興支援バザー開催のご報告

5月23日リフシア神明において恒例のバザーを開催いたしました。今年は例年に比べて約1ヶ月遅い開催になり、地域の方から「今年はまだやらないの」といった声をいただき、震災復興支援バザーが鵠沼神明で定着をしたことを感じました。神明のサービスをご利用いただいているお客様からも「地域の方に楽しんでいただこう」とポスター製作や販売用の小物作り、売り子さん等のご協力をいただきました。

今回は事前にスタッフが石巻市と女川町へ行き、共同支援ネットの皆さんからお話を伺った体験から、参加された方に現状を知っていただくよう現場レポートコーナーを作りました。被災地に派遣したスタッフにとって良い勉強の機会になりました。

年に1回の開催ではありますが、引き続き、地域の方と一緒に活動を続けていきたいと改めて思います。準備のご協力を頂いた方、バザー品のご協力を頂いた方、当日参加をしてくださった皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。

リフシア神明　所長　熊本 航

売上金　137,225円
被災地への寄付金 150,000円
当日のボランティア数 21名

以上の金額を東北関東大震災・共同支援ネットワークに寄付しましたので、合わせてご報告致します。

東北関東大震災・共同支援ネットワークからのお手紙

当初より「東北関東大震災・共同支援ネットワーク」（以下、共同支援ネット）の活動にご理解とご支援を賜りまして、深く感謝を申し上げます。

震災の2日後に、全国の仲間38団体とともに発足した「共同支援ネット」では、介護職・看護職ボランティアコーディネートや支援物資・車両のマッチングに取り組み、緊急時を過ぎてからは生活支援、移動おもちゃ・絵本図書館号及びキッチンカーの運行などに取り組んでまいりました。お寄せいただいた活動資金は情報収集のための旅費、ボランティアへの宿泊・食事の提供を含む人件費、ベースキャンプ費用等に充てたほか、被災者支援のための教材づくりや「月刊地域支え合い情報」発行のための活動費として活用しております。

なかでも、仮設住宅での子どもの遊び場支援（週1回）はプログラムを設けずに、子どもが自由な発想で遊び、親は育児不安を和らげて友達をつくる場として、また孫を連れて高齢者が参加する等仮設住宅内での世代間交流の場として、この4年間で延べ約2，900人の参加がありました。参加世帯がこの春に災害公営住宅へ転居したことから、2015年3月末で活動を一旦終了しましたが、活動先だった仮設住宅は来年閉鎖予定で、自治会と話し合ってこの夏に交流イベントを開く計画をたてています。

東日本大震災から5回目の夏を迎え、今後は災害公営住宅の住民と、周辺地域の住民が交流し、支え合う地域づくりをサポートして参りたいと考えております。引き続き東北にお気持ちをお寄せいただき、見守っていただければ幸いです。

東北関東大震災共同支援ネットワーク本部事務局
小野寺 知子

移動おもちゃ・絵本図書館のやねだん号

バザーに先がけて、共同支援ネットが運営する「あがらいん」でお話を伺いました。